

情報収集の手引き

大学での学修では、自分で課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決することが求められます。そのためには、考え方や判断を助け支えるための”情報を集める”作業が重要になってきます。

情報収集の手順やコツを知っていると、時間や手間をかけることなく、スムーズに資料や情報を集めることができます。

このプリントに書いてある手順は、図書館職員も実際に行っているものです。このプリントを読めば、どの段階でどのような資料・情報を集めれば良いかがわかるようになっています。

情報収集の手順は、一度覚えてしまえば、どんな事柄にも応用できます！

図書館をフルに活用し、効率的に資料や情報を集めて、ゴールを目指しましょう！

情報収集の手順

ステージI ○○とは何かを知る

取り組むテーマについて様々な視点を通して、全体像を把握する

- (1) ○○について調べる

【基礎】

ステージII テーマの範囲・方向性を決める

取り組む範囲や方向性を具体的に絞り込む

- (1) 視点・関連するキーワードを図にする
- (2) 取り組む範囲を絞り込む
- (3) 方向性を短い文章にする

ステージIII 方向性に沿って情報を集める

様々な資料を使い、基本的な情報から専門的な情報まで集める

- (1) 基礎的な情報を集める
- (2) 関連情報・専門的な情報を集める

◆この手引きの使い方◆

手順の説明の後に **ワーク** ページがあります。
例などを参考に自分で書き込んでみましょう。

ステージ I ○○とは何かを知る

これができる!!

- テーマ(○○)について、様々な視点や関連キーワードを把握し、全体像をつかむことができる (→p.6 例:「オリンピック」の場合を参照)

ステージ I では、自分が取り組むテーマ(○○)について頭の中を整理して、「見える化」します。この作業は、ステージ II で「取り組む範囲」や「方向性を決める」際にとても重要です。ここで得た様々な視点や関連キーワードは、この後の資料・情報を検索する時に役立ちます。

(1) ○○について調べる

事典類や一般書を使い、○○についての説明の中から、様々な方向からの視点や関連するキーワードを調べ、書き出す

手順

- ① 事典類や一般書から見つけた様々な視点を書く→下記 Point 参照=第 1 段階
 - ② 各視点ごとに関連キーワードを書き足す(事典・一般書から抜き出したり、①から連想して書く)=第 2 段階
- ※この段階で集めたキーワードは、ステージ III 情報を集める際にも使用する

例) オリンピックの場合

取り組むテーマ	視点(第 1 段階)	関連キーワード(第 2 段階)
オリンピック	運営	●オリンピック委員会 ●資金 ●施設 ●招致活動 …
	競技	●種目 ●アスリート …
	社会	●経済効果 ●マーケティング ●環境問題 …
	メディア	●新聞 ●テレビ ●Web …
	倫理	●ルール ●ドーピング ●フェアプレー …
	歴史	●古代 ●近代 …

Point

★様々な方向からの視点を知るには…

例: 「オリンピック」の場合

関連の事典や一般書(→p.10:一般書の選び方を参照)の項目や太字の言葉、

目次の見出しや章の事柄などからキーワードを抜書きしていくと、
様々な方向からの視点を知ることができる。

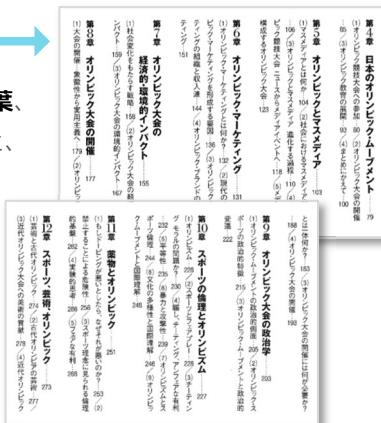
★その他にもある!!全体像を把握するための おすすめの方法

- 件名標目表、シソーラス等でも調べる事ができる。

→詳細は図書館職員まで

- 「新書マップ」

→一般的 Web サイト: 本来はテーマに沿った新書を探す
サイトだが、テーマの関連キーワードを図解(マップ)で
見ることができる。



ジム・パリー、ヴァシル・ギルギノフ.『オリンピックのすべて:古代の理想から現代の諸問題まで』.舛本直文訳.（大修館書店, 2008), 399p.

ワーク ステージ I (1) ○○について調べる

自分が取り組むテーマについて視点と関連キーワードを書き出す

- 手順**

 - ① 事典類や一般書から見つけた様々な**視点**を書く = 第1段階
 - ② 各視点ごとの**関連キーワード**を書き足す = 第2段階

※この段階で集めたキーワードは、ステージⅢ 情報を集める際にも使用する

Point

★ 「視点が浮かばない」、「自由にキーワードをあげていく方が進めやすい」場合は、p.4の自由記入用シートへ書く方法もあり。

- ① 頭に浮かんだり、本に書いてあるキーワードを視点と関係なく自由に書き出す
 - ② 書き出したキーワードの中で、似たもの同士をグループ化する(線でくくる or 色別にする等)
 - ③ グループごとに名称(グループ名)をつける = 視点となる

※似ているキーワードを近くに書くとまとめやすい

※レポート・論文には、実際に参照した資料の著者名、書名、出版者などを「参考文献」として書く必要があるので、忘れないうちにメモ! →p.16 補足: 参考文献の書き方を参照

テーマや視点、キーワードを探すために参照した資料

テーマや視点、キーワードを探すために参照した資料

自由記入用シート

p.3で「視点が浮かばない」、「自由にキーワードをあげていく方が進めやすい」場合に利用

手順

- ① 頭に浮かんだり、本に書いてあるキーワードを視点と関係なく自由に書き出す
- ② 書き出したキーワードの中で似たもの同士をグループ化する(線でくくる or 色別にする等)
- ③ グループごとに名称(グループ名)をつける = 視点となる

※似ているキーワードを近くに書くとまとめやすい

ステージⅡ テーマの範囲・方向性を決める

これができる!!

- 「どの視点から取り組むのか」テーマの方向性を明確にできる
(特に卒業研究の場合、研究の方向性を決める時に役立つ)
- 資料・情報を効率よく集めるための下準備ができる

ステージⅡでは、ステージⅠで書いた視点や関連キーワードを使って、取り組む範囲や方向性を絞り込みます。

(1) 視点・関連するキーワードを図にする

ステージⅠで書き出した様々な視点や関連キーワードを図にする

→p.6 例：「オリンピック」の場合を参照

手順

- ① 取り組むテーマを中央に書く
- ② ステージⅠで書き出した様々な視点(第1段階)を周囲に書く
- ③ ②の各視点ごとに関連キーワード(第2段階)を書き足し、線でつなぐ
(新しくひらめいたキーワードも追加する)

異なる視点のキーワードでも関連する場合は線でつなぐ

(2) 取り組む範囲を絞り込む

「どの視点から取り組むのか」を具体的にする

手順

- 視点と関連キーワードのつながりをみて、自分が取り組む範囲を囲む
→p.6 の図：[] を参照

Point

囲んだ範囲内のキーワードの数は、この後の調査の進み方に影響する

★範囲内のキーワードの数が少なすぎると…=資料が集まらない

→範囲を広げたり、新たに事典類や入門書でキーワードを見つけ、追加する。

★範囲内のキーワードの数が多すぎると…=資料が膨大になり、調べにくい

→範囲を狭める。(さらに絞り込む)

※ステージⅢでの資料の集まり具合で、囲む範囲を広げたり、狭めたりする場合がある。

(3) 方向性を短い文章にする

文章にすることで、レポートや研究の方向性をより明確にすることができます

手順

- 視点や関連キーワードから連想して、方向性を20~30字程度の文章にしてみる
→p.6 の図：方向性「 」を参照

Point

★対象を絞る(年代、地域、国、性別、年齢など)→方向性をより具体的にできる。

★5W2H にあてはめて文章にしてみる(what, where, when, who, why, how, how much)

特に「why?」(なぜ)と「how?」(どのように)を使うと文章を発展させやすい。

例：「オリンピック」の場合

ステージⅡ（1）視点・関連するキーワードを図にする

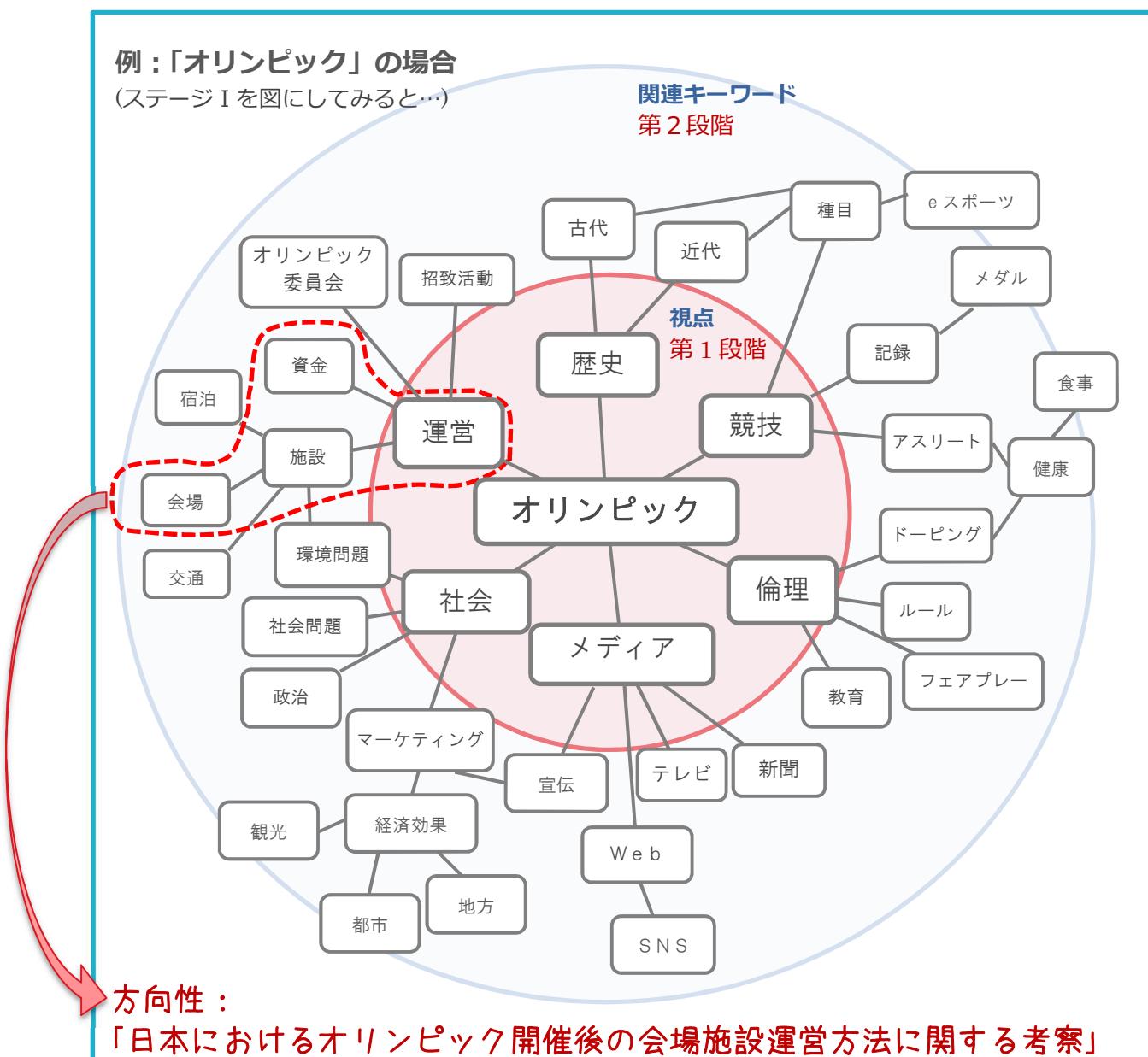
- 手順 ① 取り組む事柄を中心部に書く
② ステージⅠで書き出した様々な視点(第1段階)を周囲に書く
③ ②の各視点ごとに関連キーワード(第2段階)を書き足し、線でつなぐ
(新しくひらめいたキーワードも追加する)
異なる視点のキーワードでも関連する場合は線でつなぐ

ステージⅡ（2）取り組む範囲を絞り込む

- 手順 視点と関連キーワードのつながりをみて、自分が取り組む範囲を囲む

ステージⅡ（3）方向性を短い文章にする

- 手順 視点や関連キーワードから連想して、方向性を20~30字程度の文章にする



ワーク ステージⅡ テーマの範囲・方向性を決める

手順

- (1) ステージⅠで書き出した視点・関連するキーワードを図にする
- (2) 視点と関連キーワードのつながりをみて、自分が取り組む範囲を図む
- (3) 視点や関連キーワードから連想して、方向性を20~30字程度の文章にする



おまけ：書き直し用

ワーク ステージⅡ テーマの範囲・方向性を決める

手順

- (1) ステージⅠで書き出した視点・関連するキーワードを図にする
- (2) 視点と関連キーワードのつながりをみて、自分が取り組む範囲を囲む
- (3) 視点や関連キーワードから連想して、方向性を20~30字程度の文章にする



おまけ：書き直し用

ワーク ステージⅡ テーマの範囲・方向性を決める

手順

- (1) ステージⅠで書き出した視点・関連するキーワードを図にする
- (2) 視点と関連キーワードのつながりをみて、自分が取り組む範囲を囲む
- (3) 視点や関連キーワードから連想して、方向性を20~30字程度の文章にする



ステージⅢ 方向性に沿って情報を集める

これができる!!

- 取り組むテーマについて理解しながら、効率よく情報を集めていくことができる

ステージⅢでは、ステージⅡで決めた範囲や方向性に沿ったキーワードを使って、情報を集めます。情報を集める時には、**順序が大切**です。順序だてて集めると、取り組むテーマについて理解しながら、基礎的な情報から専門的な情報まで、効率よく進めることができます。

(1) 基礎的な情報を集める

まずは基本的な知識や全体像がわかる資料を使って、情報を集める

取り組むテーマの基本的な知識や全体像を知りたい時は…

一般書を読む

取り組むテーマの要点を理解することができる

手順

- ① 図書館資料検索で、ステージⅡで決めた範囲や方向性に沿ったキーワードを使って検索し、一般書を読んでみる→下記 Point 参照
- ② 一般書を読んで、新たに見つかったキーワードをメモする
→p.12(2)関連情報・専門的な情報を集める時に役に立つ

Point 一般書の選び方

★タイトルを見る

『○○入門』、『概説○○』など、初心者に向けた言葉がタイトルに入っているかを目安にする。

★目次を見る

目次を見れば、おおまかな内容と、どのような順序で書かれているかという構成がわかる。

★はしがき（まえがき）を見る

執筆の意義や目的、対象としている読者についても書かれているので、一般向けなのか専門家向けなのかを知ることができる。

★出版年に注意する

調べている内容によっては、古い情報になってしまい役に立たないことがある。

★版数を重ねている資料は、信頼できる

「版・刷」が多い資料は、それだけみんなに使われている。資料の巻末を見ると…

- ・「版」→内容が変わったとき版数が変わる
- ・「刷」→印刷回数

？こんなときは？

図書館資料検索をしたら…

自分が入力したキーワードとは違う資料がヒットした!

→検索結果詳細の画面で**件名**を確認してみる。

件名に自分が入力したキーワードがあつたら、関連する資料と考えられる。

※件名とは・・・資料の内容・テーマを表現するもの

例)キーワード欄に

「オリンピック」と「歴史」を入力して検索された資料。

タイトルだけではわからないが、画面下部の件名欄を

見ると、関連することがわかる。

The screenshot shows a library catalog entry for '都市のレガシー' by Toshiro Legashi, published by Meiji Shoin in 2022. It includes a thumbnail image of the book cover, author information, and publication details. Below the main entry, there is a 'Call Number' section showing '518.8 八' and a 'Material ID' section with '300108132'. At the bottom, there is a 'Subject' field containing 'オリンピック' and '歴史'.

ワーク ステージⅢ （1） 基礎的な情報を集める

ステージⅡで決めた範囲や方向性に沿ったキーワードを使って、一般書を調べる

- 手順 ① 図書館資料検索で、キーワードを使って検索し、一般書を読んでみる
実際に参照した一般書を参考文献としてメモしておく
→p.16 補足:参考文献の書き方を参照

一般書を探すために使ったキーワード	実際に参照した一般書

- 手順 ② 一般書を読んで、新たに見つかったキーワードをメモする

ここまで手順は
情報収集の基本です。
必ず行いましょう。
更に詳しい資料が必要な方は
次の手順へ進みます。

(2) 関連情報・専門的な情報を集める

基本的な情報が集まつたら、必要に応じて更に幅広く、詳しい情報を集める

最新の動向や幅広く情報を集めたい時は…

書籍 新聞・雑誌で調べる

新しい情報(社会の出来事や研究動向など)を知ることができる。

図書館の新聞や雑誌のコーナーでは、10種類以上の新聞を始め、一般雑誌から各分野の学術雑誌まで、見ることができる。

Point ★データベースも使ってみよう

「データベース」とは、コンピュータ上でデータを効率的かつ整理された方法で保存・管理するシステムのこと。必要とする情報を容易に探し出すことができ、一般的なウェブ情報よりも信頼性が高く、価値のある情報を集めることができる。

図書館ホームページからログインして、キーワードを入力して検索すると、該当する情報を一気に集めることができます。パソコン上で記事や論文の全文が読めるものもある。(一部抄録まで)

新聞や雑誌以外にも、企業情報や人物情報、辞典を調べるデータベースもある。

より詳しく、専門的な情報を集めたい時は…

書籍 専門書を読む

その分野で認められ確定した、専門性が高い知識を得ることができます。

専門書を探すには、図書館資料検索で一般書に掲載されている参考文献や引用文献のタイトルを入力し、検索する。

数値、データや年ごとの動向が知りたい時は…

書籍 白書・統計・年鑑類を使う

過去から現在まで累積された情報を比較し、対象の傾向・動向を探る事ができる。

図書館の参考図書コーナーには、各分野の白書や統計、年鑑類が集めてある。

(各機関のホームページでも公開している場合が多数あり、いくつかは図書館ホームページのリンクタブから利用できるものもある)

複数の資料をくらべて、情報が偏らないように注意する。

もっと情報の幅を広げたい時は…

書籍 ウェブ情報を見る

政府官公庁や関連団体のホームページも参考にすると、さらに情報の幅が広がることがある。

ただし、情報の提供元や、情報そのものが新しく確実であるかを確認したうえで、使っても問題ない情報かを判断する。

ワーク ステージⅢ (2) 関連情報・専門的な情報を集める

書 新聞で調べる：集めたキーワードを使って新聞を調べる

実際に参照した新聞記事を参考文献としてメモしておく

→p.16 補足：参考文献の書き方を参照

新聞記事を探すために使ったキーワード	実際に参照した新聞記事

書 雑誌で調べる：集めたキーワードを使って雑誌を調べる

実際に参照した雑誌記事・論文を参考文献としてメモしておく

→p.16 補足：参考文献の書き方を参照

雑誌記事・論文を探すために使ったキーワード	実際に参照した雑誌記事・論文

📖 **専門書を読む**：集めたキーワードを使って専門書を調べる

実際に参照した専門書を参考文献としてメモしておく→p.16 補足：参考文献の書き方を参照

専門書を探すために使ったキーワード	実際に参照した専門書

📖 **白書・統計・年鑑を使う**：集めたキーワードを使って白書・統計・年鑑を調べる

実際に参照した白書・統計・年鑑をメモしておく→p.16 補足：参考文献の書き方を参照

白書・統計・年鑑を探すために使ったキーワード	実際に参照した白書・統計・年鑑

ウェブ情報を見る：集めたキーワードを使ってウェブ情報を調べる

実際に参照したウェブ情報をメモしておく→p.16 補足：参考文献の書き方を参照

ウェブ情報を探すために使ったキーワード	実際に参照したウェブ情報

以上が情報収集の手順です。

情報収集の手順はどんなテーマにも応用できます。

図書館をフル活用して、効率的に資料・情報を集めましょう。

→図書館ホームページを活用(<https://www.tokaigakuen-u.ac.jp/lib/>)

困ったときは、図書館1階 ヘルプデスクへどうぞ。

補足：参考文献の書き方

参考文献の種類や参照の仕方によって、書き方が異なります。下記は一例です。

資料種類と 参照の仕方	必要項目と書き方の例
図書 1 冊 を参照	著者名. 『書名』. 版表示, (出版者, 出版年), 総ページ. 例) ピエール・ド・クーベルタン. 『オリンピック回想録』. 伊藤敬訳. (メディアパル, 2021), 223p.
図書の一部 を参照	著者名. “章名・表名”. 『書名』. 版表示, (出版者, 出版年), 始めのページ－ 終わりのページ. 例) 文部科学省. “第 1 部 特集 1 東京オリンピック・パラリンピック競技大 会の軌跡とレガシーの継承・発展”. 『文部科学白書』. 令和 3 年度版, (文部 科学省, 2022), p.3-19.
新聞の 1 記事 を参照	著者名. “記事タイトル”. 『新聞紙名』. (発行年月日), 朝夕刊, 面. 例) 野村周平. “競技場の運営、国が最大年 10 億円 24 年度の民間委託後、 補助”. 『朝日新聞』. (2022.12.29), 朝刊, 3 面.
雑誌の 1 記事・ 論文を参照	著者名. “記事名(論文名)”. 『雑誌名』. (出版者, 出版年), 卷数, 号数, 始めの ページ－終わりのページ. 例) 浅野将志. “オリンピックの理念と現実の乖離：人権問題、環境問題への 着目から見えるもの”. 『国際理解教育』. (日本国際理解教育学会, 2021), vol. 27, p.46-55.
ウェブ情報 を参照	著者名. ”Web ページの題名”. Web サイトの名称. URL, (入手年月日). 例) 公益財団法人日本オリンピック委員会. “クーベルタンとオリンピズム”. 公益財団法人日本オリンピック委員会ホームページ. http://www.joc.or.jp/olympism/coubertin/ , (参照 2023.04.20) .

手引き作成に際し 参考にした資料	日本図書館協会図書館利用教育委員会図書館利用教育ハンドブック学校図書館(高等学校)版作業部会編著. 『問い合わせるスパイアル: 考えることから探究学習をはじめよう!』. (日本図書館協会, 2011), 123p.
	愛知淑徳大学図書館編, 鹿島みづき. 『レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙』. (勉誠出版, 2009), 203p.
	藤田節子. 『図書館活用術: 検索の基本は図書館に』. 新訂第 4 版, (日外アソシエーツ, 2020), 230p.
	科学技術振興機構. ”参考文献の役割と書き方: 科学技術情報流通技術基準(SIST)の活用”. 科学技術情報流通技術基準. 2011-3. http://jipstijst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf , (参照 2023.04.20).